

「研究インテグリティ」の確保について

1 概要

科学技術・イノベーションの創出を推進していくためには、学術コミュニティで共有されているオープンサイエンスの考え方を原則とし、多様なパートナーとの国際共同研究を推進していく必要があります。

同時に、研究活動の国際化、オープン化に伴い、近年顕在化するようになった新たなリスクにより、開放性、透明性といった学術研究の基盤となる価値が損なわれかねない懸念や、研究者が意図せず利益相反・責務相反に陥る危険性が指摘されております。

こうした中、研究の健全性・公正性（以下、「研究インテグリティ」）という学術研究の基盤を確保し、国際的な信頼性を伴った研究環境を構築することが、研究力の強化に必要な国際協力および国際交流を進めていくためには不可欠となっております。

日本赤十字広島看護大学では、「研究インテグリティ」の確保を、次の体制で対応しています。

2 本学における研究インテグリティの確保にかかる体制

本学における次の既存委員会等が相互に連携し、「研究インテグリティ」の確保をしています。

- (1) 利益相反管理委員会（利益相反マネジメント委員会）
利益相反を適切にマネジメントし、健全な産学官連携活動の推進ならびに教育および研究の高度化を図る。
- (2) 研究倫理審査委員会
教職員に対する倫理教育を推進するとともに、研究倫理に関する事項を審議、調査、検討する。
- (3) 安全保障輸出管理体制
安全保障輸出規程に基づき、輸出管理に関する重要事項を審議する。
- (4) 事務局各課：上記（1）～（3）と情報共有、連携
 - 総務課：職歴及び所属機関、役職、兼業等。出張の内容・目的。協定・覚書等
 - 財務課：研究経歴等

3 「研究インテグリティ」の確保体制図

